

1 総合計画と行政評価について

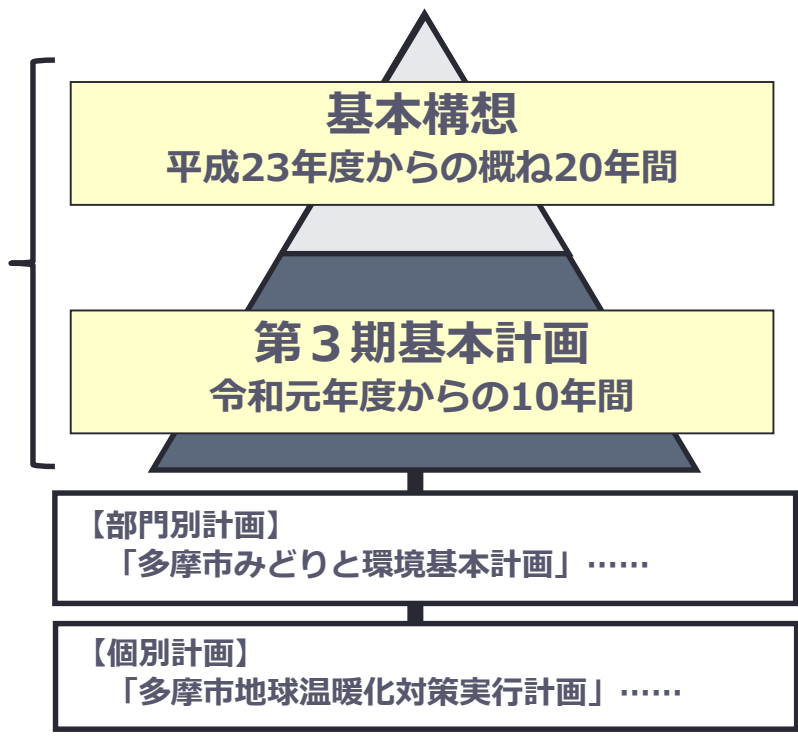


1 総合計画と行政評価について

(1) 総合計画とは

- ・ 市民と行政の共通の目標として、まちづくりを進める上で根幹となる計画であり、様々な計画の中で最上位に位置づけられる計画です。
- ・ 令和元年6月に、**第五次多摩市総合計画 第3期基本計画**がスタートしました。

総合計画



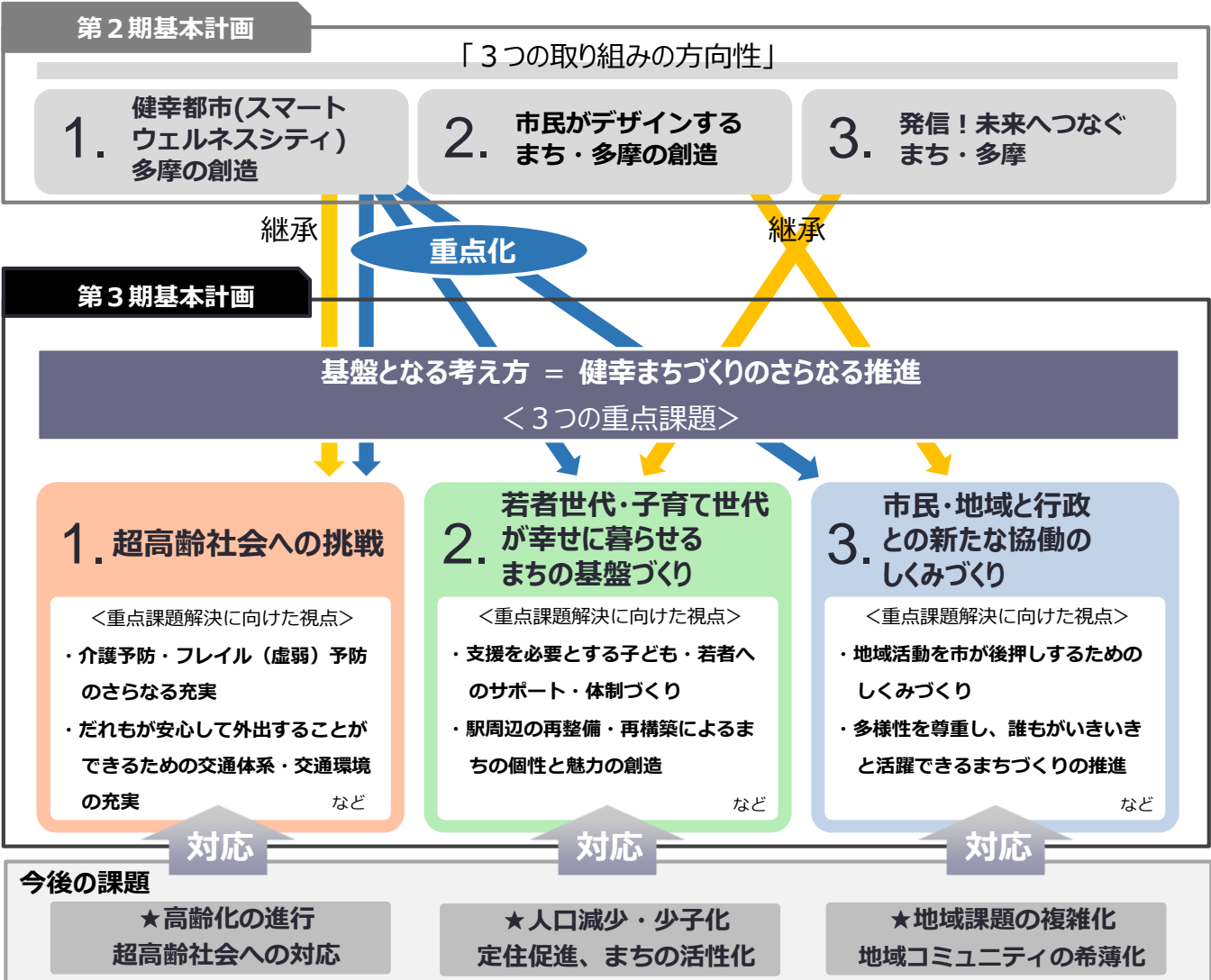
- 第1章：まちづくりの基本理念
- 第2章：将来都市像「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」
- 第3章：目指すまちの姿（6つ）

- **基盤となる考え方「健幸まちづくりのさらなる推進」**
⇒ 3つの重点課題
 - ① 超高齢社会への挑戦
 - ② 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるまちの基盤づくり
 - ③ 市民・地域と行政との新たな協働のしくみづくり…重点課題は、18の全庁横断的な視点のもとで、各施策に反映させながら、取組を推進していきます。
- 政策（13）
- 施策（38）



1 総合計画と行政評価について

(2) 「健幸まちづくりのさらなる推進」と「3つの重点課題・18の重点課題解決に向けた視点」



健幸まちづくりをさらに推進していくことを、計画の基盤となる考え方として位置づけ、3つの重点課題に注力して取り組みます。



1 総合計画と行政評価について

(2) 「健幸まちづくりのさらなる推進」と「3つの重点課題・18の重点課題解決に向けた視点」

基盤となる考え方 = 健幸まちづくりのさらなる推進

重点課題(3)

重点課題解決に向けた視点(18)

<重点課題1> 超高齢社会への挑戦	<重点課題2> 若者世代・子育て世代が 幸せに暮らせるまちの基盤づくり	<重点課題3> 市民・地域と行政との 新たな協働のしくみづくり
① だれもがいいきと生活できるための健康づくり活動の支援	① 子育てがしやすいと思える保育・教育環境の充実	① 地域活動を市が後押しするためのしくみづくり
② 介護予防・フレイル(虚弱)予防のさらなる充実	② 市独自の子ども・子育て支援や教育の推進	② だれもが地域活動に参画できる環境整備
③ 地域医療・介護体制を支える仕組みづくり	③ 支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり	③ 「だれもが支え手」の地域づくり
④ 高齢者の居場所づくりと地域における支援体制の充実	④ 子育て世代にもやさしい都市基盤の維持・向上	④ 地域防災・防犯活動を通じた結びつきの強化
⑤ だれもが安心して外出することができるための交通体系・交通環境の充実	⑤ 駅周辺の再整備・再構築によるまちの個性と魅力の創出	⑤ 多様性を尊重し、だれもがいいきと活躍できるまちづくりの推進
⑥ だれもが安心して住み続けられるための住み替え・居住支援	⑥ 多様な働き方を実現するための環境整備	⑥ 現役世代の声を地域に活かすしくみづくり

● 「重点課題」は全庁横断的な**18の視点**のもとで各施策に反映させながら、取組を推進していきます。あわせて、評価・予算との連動として、毎年の行政評価や新規レベルアップ事業の評価基準等でも使用していきます。



2 現在の多摩市の取組状況について



2 現在の多摩市の取組状況について

(1) 新型コロナウイルスに対する市の取組について

① 多摩市PCR検査センターの設置

多摩市医師会と協力連携して、かかりつけ医が必要と判断した際にPCR検査を受けることができる多摩市PCR検査センターを設置しました。



② 「多摩市飲食店応援チケット#たましめし」販売支援

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、売りにげに影響を受けている市内飲食店の経営支援のために、市内飲食店のうち参加店舗を対象に、購入額に10%の上乗せの特典を付けた「多摩市飲食店応援チケット」を販売しました。



2 現在の多摩市の取組状況について

(3) 多摩市に住む市民が安心して住み続けられるための地域づくりの取組について

① 地域懇談会の開催、地域委員会の設置に向けた取組の推進

いつまでも住み続けたいと思える地域づくりを目指し、2つのモデルエリアで検討を行っています。東寺方小学区ではアンケート調査の実施や、エリアミーティングを行っています。

諏訪中学区では、地域福祉推進委員会と連携した多様な世代の参画を促す視点による企画支援・広報支援を行っています。



② 現役世代の地域参加・行政への参画の推進

主に39歳以下の若者たちが集い、様々なプロジェクトを企画・実践する場である「多摩市若者会議」では、若者のまちづくり拠点「未知カフェ」の設立・運営や、市の大きな魅力である遊歩道を撮影し「Googleストリートビュー」に掲載するなど、まちの魅力の創出・発信に取り組ましました。今年度からは「合同会社MichiLab」を立上げ、独立した若者の団体として活動しています。

